

## くぬぎ山地区自然再生事業地植生調査結果の概要について(狭山市)

## 1 調査概要

廃棄物焼却施設の地区外への移転を契機に、平成14、15年度に埼玉県と狭山市が共同して樹林地再生(植生復元)事業を実施した。この事業における植物の生育状況等を継続して調査し、事業から約5年となる平成20年度に工法の比較検討等調査結果をまとめた。

表土移設 A	表層と下層を分けて運搬し下層、表層の順に敷きならした。
表土移設 B	下層だけ運搬し敷きならした。
表土ブロック移植	表土を1m×1m×厚さ30cmのブロック状に掘削し、移植した。

## 2 調査結果概要

## (1) 木本類概要

## ① 根株移植区(表土移設B区)

目通り40cmから150cmのコナラ、クヌギ、エノキ、ヤマザクラなど13本が移植され、調査により生存したのは6本であった。目通り別の生存率は、40～80cmが75%、80～120cmが66.7%、120～160cmが33.3%であった。

## ② 稚樹移植区(表土移設B区)

エノキ、ミズキ、タラノキなどの稚樹が25㎡の範囲内に1本/㎡の割合(25本)で移植され、調査により自生を含め39本を確認した。

なお、成長の早いコナラ、ミズキ等は、樹高0.6m～0.8mから5年経過し、5.0m～5.8mに成長していた。

## ③ 表土ブロック移植区

シラカシ、エノキ、エゴノキ、コナラ、ムクノキなどが成長しており、この地域で見られる植物種で構成されている。

## (2) 植物種概要

根株移植区では、明るい雑木林で見られるミツバツチグリ、ネコハギなど18種が確認された。

稚樹移植区、表土ブロック移植区では、ケチヂミササ、カマツカ、ツタなど19種が確認された。

外来種については、工事当初、ヒメムカシヨモギなど造成跡地によく出現するものが多かった(5～8種)。その後は、どのエリアでも持続的に減少し、低い値(2～6種)で落ち着いている。種類としては、セイタカアワダチソウ、メリケンカルカヤ、アイチヌスビトハギなどが多い。また、表土移植ブロックでは、樹木の生育が良好で外来種の侵入は少ない。

### (3) 考 察

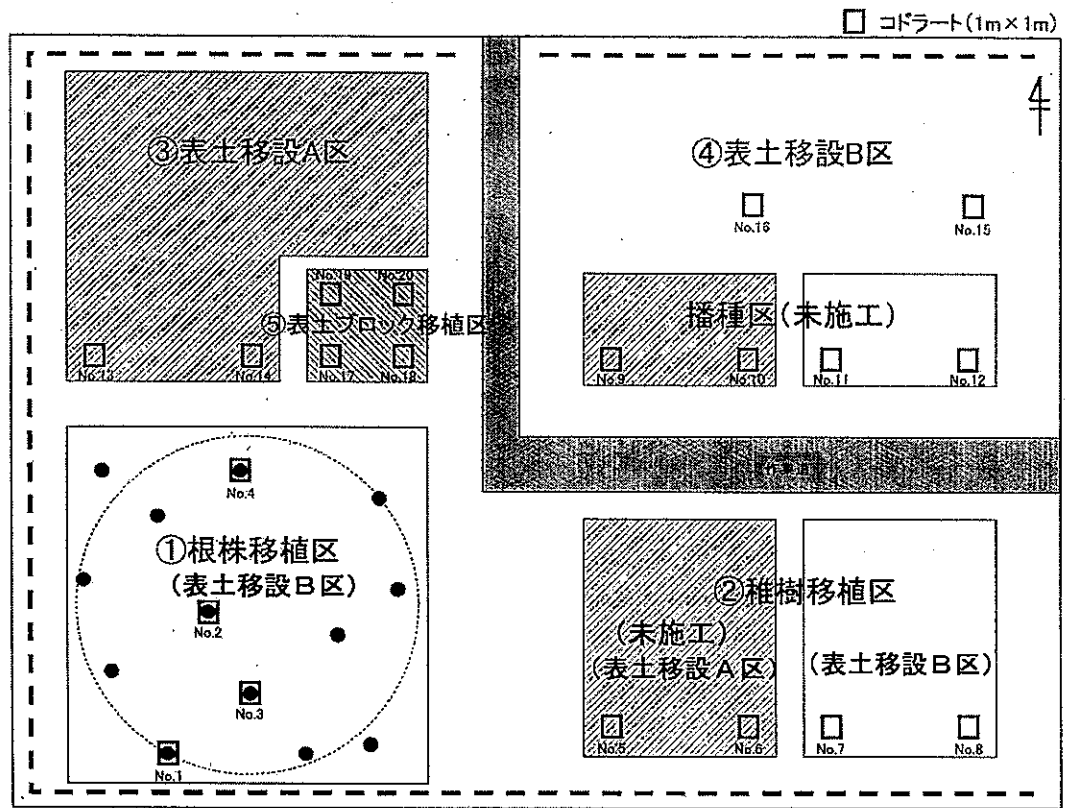
再生に係る工法としては、地域の木本類が成長し、外来種の侵入が少なく初期段階から景観形成できることなどから、表土ブロック移植が最良と考えられる。



続いて、稚樹移植・根株移植が適していると考えられる。

表土移設は、施工当初から外来種が繁茂してしまうため、木本類が生育しにくく、再生に時間を要し、草刈等の維持管理も発生するため、不適と考えられる。

今後は、外来種の早期刈り取りや、つる植物の生育に注意し必要に応じて駆除する必要がある。

#### 調査地詳細



※ ハッチング・・・  表土移設A区  表土ブロック移植区